

発達障害のある生徒の

# よき理解者・支援者となるために

富山県教育委員会

2019年3月発行

## 生徒への支援は、どうしたらよいのでしょうか…？

注意するだけでなく  
自信をもたせることが大切

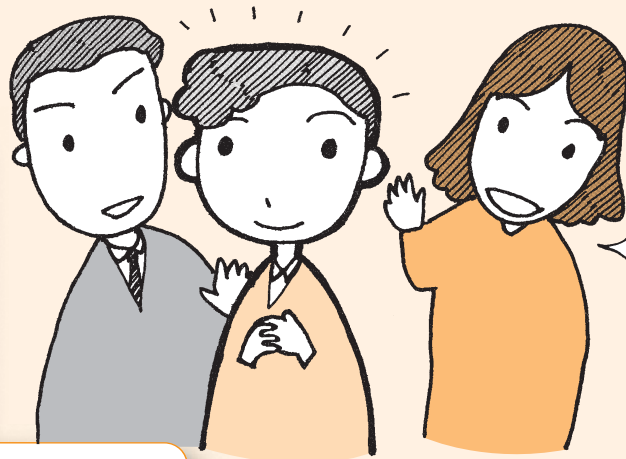


自分らしさ、自分の「よさ」に  
気づかせましょう。

失敗するたびに困り、自信をなくしているのは、生徒自身です。  
注意や叱責だけでは、「また失敗するのでは…」と自信をなくすだけです。

### Point

- どの生徒にも、必ず「よさ」や「得意な面」があるはず。ほめることで気づかせ、もっと伸ばしましょう。
- 生徒自身に「分からないこと」や「困ること」を気づかせることが大切です。そして、助けを求める方法などを教えましょう。



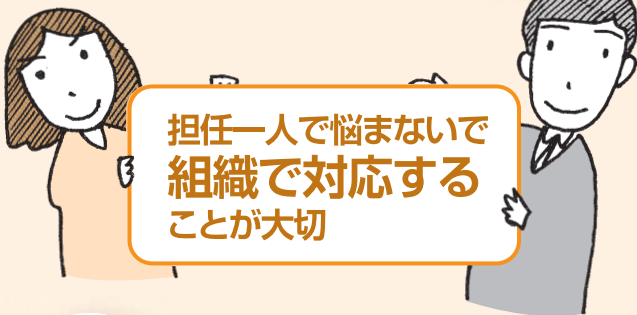
君には〇〇な  
よいこと  
があるんだよ。  
次からは△△  
するようにしな  
いね

自分自身への  
気づきも促し  
ましょう。

自分の行動や考え方、特性、長所、短所などを客観的に眺めさせ、自分の行動の特徴に気づかせましょう。

この「気づき」をもとに、生徒自身が自分の行動を修正していくように支援することが大切です。

担任一人で悩まないで  
組織で対応する  
ことが大切



### Point

- 校内の「特別支援教育コーディネーター」や管理職、教育相談担当者等と一緒に相談し、役割を分担するなど、校内の支援体制を整備することが大切です。
- 必要に応じて、地域の特別支援学校や関係機関の支援を得ましょう。

# 支援の実際

## =学習場面における支援=

文章を読んだり、文字を書いたりすることが、他の生徒と同じようにできない。



### 【考えられる原因】

- ・認知のつまずきがあるために、見て理解する力、見分ける力が弱く、正確に情報処理ができない。(視知覚系の困難)
- ・たくさんの文字が同時に目に飛び込み、どこを読んでいるか分からない。
- ・文字の形や大きさを判別できなかったり、字の形を記憶することが難しい。
- ・聞いたことを覚えていることができず、すぐに忘れてしまう。

### 【具体的な支援方法】

- 読む行に紙や定規をあてたり、傍線を引いたりする。
- 板書に色チョークを使って分かりやすくしたり、板書を読ませてから書かせたりする。
- 記述式だけでなく選択肢から選ぶ解答方法も取り入れる。書くことが苦手な場合は、言わせてから書かせる。
- ワークシートなどを活用し、生徒が話したとおりに文章を書く、音読の文章を聞きながら文字をたどる、教師の説明や連絡を要約して書くなどの場面を多く設定する。

教師の指示が、うまく伝わらない。授業中、ぼんやりしている。



### 【考えられる原因】

- ・認知のつまずきがあるために、聞いて理解する力、聞き分ける力が弱く、正確に情報処理ができない。(聴知覚系の困難)
- ・自分に必要な音声を選択して聞き取ることができず、似ている音声の聞き間違いが多い。
- ・見えるものや聞こえるものに気が散ってしまい、学習に集中することができない。

### 【具体的な支援方法】

- 座席を工夫(窓側から離す、前側にするなど)し、授業に集中できるようにする。
- 説明する時には、写真や図、表などの視覚的なものを準備する。
- 授業をいくつかの展開に分け(説明を聞く、書く、グループで話し合う、発表する等)メリハリをつける。
- 「きちんとしなさい」「しっかりしなさい」ではなく、「△△を3回しましょう」など、具体的に指示を伝える。
- 全体に指示をした後、個別にも指示を伝える。

生徒のできたことや改善が見られたことはほめ、生徒の得意とすることやできることを手がかりとして指導を工夫することで、自信をもたせることが大切です。

## =学校生活や集団行動における支援=

興奮し、感情が高ぶりやすかったり、集団での行動が苦手だったりする。



### 【考えられる原因】

- ・他人の行動の意図、周囲の状況や出来事を自分と関連させて理解することが難しい。
- ・感情や行動のコントロール、モニタリング(自分の行動を振り返ること)が難しい。
- ・何をすればよいか分からず、活動の見通しがもちにくい。
- ・こだわりがあり、柔軟な対応ができない。

### 【具体的な支援方法】

- パニックになったときは静かな場所に移動させ、落ち着く(クールダウン)まで待つ。
- どのように対応すれば良かったのか、どのように話せば良かったのか、一緒に振り返り考える。
- 急な変更は避け、変更がある場合は、できるだけ早く具体的に知らせる。
- 初めて体験する行事については、写真を見せたり、日程を書いて示したりするなど、見通しをもたせる。
- 1回で一つの指示をする。また、具体的で分かりやすい指示、肯定形(～しましょう)の指示などを行う。
- 我慢したり、うまく対応ができたときはほめる。

失敗の経験と叱責が続くと自尊心(自己肯定感)が低くなり、不安や人間不信が募り、反抗的な態度をとることがあります。簡単なことでも、できたことをほめることが大切です。また、教師によって対応が異なると、生徒は混乱します。一貫した指導が大切です。

## ＝対人関係における支援＝

友達とうまく関われず、トラブルが多い。



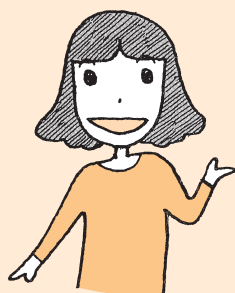
### 【考えられる原因】

- ・他人の行動の意図、周囲の状況や出来事を自分と関連させて理解することが難しい。
- ・自分の思いや気持ちをうまく表現したり、相手の気持ちや立場を理解したりすることが難しい。
- ・友達との気持ちの行き違いから、自分を抑えることができない。
- ・会話の基礎的なスキル（技能）を獲得していない。

### 【具体的な支援方法】

- 「うまくいかなかった場面」を振り返り、どのように行動をすればよかったのかなどを、本人と一緒に考える。
- 考える際には、話すだけでなく、図示したり文章に表したりして、相手と自分との関係が見えるようにする。
- 基本的な会話の仕方や友達の誘い方など、当たり前と思えるような基本的なやりとりを教える。（ソーシャルスキルの指導）
- 本人の得意なことを生かして、周囲に認められるような機会をつくる。また我慢したり、うまく対応ができたときはほめる。

どうしてトラブルになったのか、どう対応すればよかったのか、一緒に考えながら自己受容をさせることが大切です。



### 周囲の生徒への支援

発達障害のある生徒にどのように接したらよいか分からず悩んでいる生徒もいます。対応の仕方が分からず、からかいやいじめに発展することも少なくありません。発達障害について説明するだけでなく、「誰にでも得意・不得意がある」ことや、障害の有無にかかわらず「一人一人の存在を大切にする」ことの大切さなどについて、生徒と一緒に考える場を設けることが必要です。そして、互いの違いを「個性」として認め合いましょう。

また、周りの生徒の不満や正直な気持ちを出させる機会を設定することも大切です。

## ＝進路（就職・進学）支援＝

高等学校での進路支援で大切なことは、社会人としての自分の姿を具体的に描くことです。

そのためには、進路が自分の特性に合っているのか、描いた姿に近づくためには何が必要か、高校生として今できることは何かなどを考えさせていく必要があります。

### 自己理解(気づき)を促す

- 自分の長所・短所、興味・関心、学力、性格、適性などを客観的に理解させる。
- 自分の適性に合った職業を調べさせる。
- その職業に就くためには、どんな資格や免許が必要か、どのようにしたら取得できるのかを具体的に考えさせる。

### ソーシャルスキル トレーニング

- 当たり前と思えるような社会のルールや場に応じた会話や振る舞い方について理解させる。
- 就労には様々なスキル（挨拶や報告・連絡・相談、質問等）が必要なことを理解させる。
- ※指導プログラムは、発達障害者支援センターや障害者就業・生活支援センター等から得ることができます。

### 社会体験

- インターンシップ等の就業体験や、ボランティア活動などを通して、就労や社会生活について理解を深めさせる。

### 自己決定

- 教師や保護者は良き相談相手として、情報や知識を伝え、自分で考えさせる。
- 進路だけでなく、普段から本人の意思を尊重し、「自分で決めた」ことに対しての努力を認めるようにする。

本人の意思を大切にしながら、必要に応じて関係機関と連携を取ることも大切です。保護者や関係機関の意見も聞きながら、総合的に支援しましょう。

# 校内支援体制の整備

生徒からの相談

教師の気づき

保護者からの相談

【記録をとることが重要】

相談

学 年

特別支援教育コーディネーター

教育相談部・生徒指導部

## 校内委員会

### 【構成メンバーの例】

校長、教頭、特別支援教育コーディネーター、生徒指導主事、教務主任、進路指導主事、保健主事、教育相談担当、学年主任、養護教諭等

- ・生徒の実態を組織的に把握します。
- ・支援内容・方法、支援の在り方を検討します。
- ・生徒の指導方針などについて、教職員間で共通理解を図ります。
- ・保護者や関係機関との連携を図ります。
- ・校内研修会などを計画し、教職員の指導力の向上を図ります。



連携・支援

## 学習・学校生活

## 外部支援機関

## 就労支援

### 〈新川地区〉

- ・にいかわ総合支援学校

### 〈富山地区〉

- ・しらとり支援学校
- ・富山総合支援学校
- ・高志支援学校
- ・富山大学人間発達科学部附属特別支援学校

### 〈高岡地区〉

- ・高岡支援学校
- ・こまどり支援学校

### 〈砺波地区〉

- ・となみ総合支援学校
- ・となみ東支援学校

### 就労に関する相談

- 〈東部地区〉・富山高等支援学校
- 〈西部地区〉・高岡高等支援学校

富山県総合教育センター  
教育相談部  
特別支援教育担当  
TEL 076-444-6351

富山児童相談所  
TEL 076-423-4000  
高岡児童相談所  
TEL 0766-21-2124

富山県発達障害者  
支援センター  
(ほっぷ)  
TEL 076-438-8415

ハロー  
ワーク

富山障害者職業センター  
TEL 076-413-5515

ヤングジョブとやま  
(富山県若者就業支援センター)  
TEL 076-445-1998

### 障害者就業・生活支援センター

新川障害者就業・生活支援センター (新川圏域)  
社会福祉法人 新川むつみ園 TEL 0765-78-1140

富山障害者就業・生活支援センター (富山圏域)  
社会福祉法人 セーナー苑 TEL 076-467-5093

高岡障害者就業・生活支援センター (高岡圏域)  
社会福祉法人たかおか万葉福祉会 かつかこ苑 TEL 0766-26-4566

砺波障害者就業・生活支援センター (砺波圏域)  
社会福祉法人深明会 サポートセンターきらり TEL 0763-33-1552

# 保護者との連携

生徒の一番の理解者・支援者は、保護者です。

問題点だけを伝えるのではなく、生徒の「よさ」や改善されたこともしっかり伝え、一緒に考えていくことが大切です。

担任一人では、十分な支援はできません。

校内支援体制を整備し、組織(チーム)として支援することが大切です。

校内での支援だけで不十分なときには、積極的に外部支援機関を利用しましょう。